

3歳～4歳頃の身体と心と言葉の育ち

身体の育ち

自分の身体の動きをコントロールできる力が育ってくるので、不安定な姿勢でもバランスをとって調整できるようになってきます！



違う2つの動作を同時に
コントロールできるように

運動発達には個人差があります。運動が苦手なお子さまは“お手伝い”に積極的に誘ってあげることで、“カッコいい自分”をしっかりと感じさせてあげるとよいでしょう。



運動遊びのレパートリーやお手伝いの機会が増えることで“**大きくなった自分**”や“**カッコいい自分**”を感じる機会をたくさん持つことができ、自信や挑戦への意欲の根っこが育まれます！

心の育ち

4歳にさしかかると、他人の考えや求めを理解できるようになってきます。また、自分の気持ちを整えながら相手を受け入れる“自制心”も少しずつ形成されていきます！



この“自分の気持ちを整えながら相手を受け入れる”過程では、心のゆれ（葛藤）により、

- ・聞き分けがない、わざと反対のことを言う
- ・ちょっとしたことですぐ泣く、かんしゃく
- ・困ったクセ（指しゃぶり、爪かみ、鼻ほじりなど）など

大人から見ると、困った行動や態度としてあらわれることがあります。

★心のゆれ（葛藤）への対応のポイント★

★心のゆれ（葛藤）の根っこにある子どもの思いを、一旦、言葉にしてあげましょう。

（例）公園から帰ることをぐずる場面

心のゆれ（葛藤） 帰る時間だとわかっている けれど もっと遊びたい！

根っこにある子どもの思い（もっと遊びたい！と思うぐらい） すごく楽しかった！

根っこにある子どもの思いに注目した声かけ「すごく楽しかったんだね」

葛藤場面で、自分の思いを大人に受け止められたと感じると、“自分の気持ちを整えながら、相手の提案を受け入れる”（気持ちの折り合いをつける）きっかけをつかみやすくなります。

また『子どもの思い』を受け止めた大人の声かけは、将来、子どもの適切な我慢と適切な自己主張をバランスよくコントロールできる力の獲得にもつながります。

子どもの困った行動や態度に対して、制止したり叱ったりという対応は、心のザワザワを必要以上にエスカレートさせてしまう可能性があるため、可能な限りさけたい対応です。

言葉の育ち

イメージする力が、少しずつ育ってくるので、絵本のストーリーの展開やごっこ遊びを楽しむにしたり、園での出来事などを思い出してお話したりできる。

★自分の言葉で話すことの育ちへの対応のポイント★

- ★“伝えたい”“話したい”という子どもの思いを大事にしてあげましょう。
- ★“イメージする楽しさ”を実感させてあげましょう。

『そーなんだー』などと、あいづちを打ちながらしっかりと聞いてあげてください。

お話ししてくれる内容にまとまりがないと感じる時には、『〇〇して××だったんだね』と大人ができるだけ短い文章にして言って聞かせてあげると良いでしょう。

